

県内初 海牛の化石

県古生物研究会 高岡で発掘

鮮新世の日本海最南端

県古生物研究会は23日、富山市の八尾化石資料館で会見を開き、高岡市五十辺の石灰採掘場で約300万年前の「海牛」の化石が見つかったと発表しました。ジュゴンの仲間、県内での化石発見は初めて。体長10センチを超える大型のほ乳類で、葉室俊和事務局長は、鮮新世（520万～164万年前）の日本海の発見場所では最南端であるとし、海牛の進化を明らかにする手がかりになると期待している。



海牛の化石の説明をする葉室さん
＝富山市の八尾化石資料館

ジュゴンの仲間「新種の可能性」

同会によると、2006年10月の調査で、葉室事務局長と会員の安田俊雄さんが化石を発見し、会員らの協力を得て08年5月まで採集作業を行った。化石は冷たい水中での生活に適した「ヒドロタマリス属」の一種で、頭骨や上腕骨などが発

掘された。海牛の化石で種の特定に重要な頭骨が出た例は少ない。ヒドロタマリス属は18世紀に、ステラカイギュウが絶滅したのを最後に姿を消した。今回の化石は体長や歯がないことなどがステラカイギュウと共通している。日本海では例がなく、葉室事務局長は「新種の可能性もある」、種の特定を進めたい」と話してい

る。
海牛の化石は25日から八尾化石資料館の企画展「人魚伝説－海牛と海のなかまたち」で初公開される。

12版 ▲ 2009年(平成21年)7月24日 金曜日 享月

「富山の人魚」 海牛化石を展示

八尾化石館から
あすか

富山市八尾町桐谷の「八尾化石資料館」は25日から、県内で初めて発掘された「海牛」の化石を展示する。化石は人魚のモデルとされるジュゴンの祖先にあたる種類のものとみられ、発掘に携わった団体は、県内に伝わる「人魚伝説」と絡めて説明もする予定。

化石は06年10月、高岡市五十辺の土砂採取場で発見された。県古生物研究会の会員らが、08年5月まで発掘を続け、析を続けている。



化石を手に説明する県古生物研
葉室俊和さん＝富山市八尾町桐谷